

古代山城は、「神籠石論争」を発端に研究が進み、城郭論が定説となつた。既往研究では土器の出現時期と出土量などの出土物や山城自体の構造である石墨や城門に着目してきた。

私は、今回の研究で古代山城と古代道路の関係性に着目した。車路と呼ばれる延喜式駅路よりも以前の道路の出現から道路位置と周囲の自然地形を意識した配置であると考えた。

そこで、大宰府を中心として古代道路を現在の高速道路のような「のぼり」「くだり」を意識して各古代山城に当てはめることとした。さらに、唐・新羅軍の進行を想定し、視認性について考慮した。

古代山城が、古代道路からの視認性を意識しているか否かを仮定し、四つに分類することができた。

分類①は、古代道路からの視認性を意識して選地した古代山城として「鞠智城（のぼり・くだり）」、「基肄城（くだり）」、「鹿毛馬神籠石（のぼり・くだり）」などを分類した。進行方向上に古代山城を視認することができずがその方向をみて初めて視認でき、古代山城の前面に広がる山や丘により視認が遮られる場合とした。

分類②は、古代道路からの視認性をやや意識して選地した古代山城として、「女山神籠石（くだり）」、「杷木神籠石（のぼり）」などを分類した。近接して初めて視認できるものが多く、丘陵や山を越えないと視認できない。

分類③は、古代道路からの視認性をわずかに意識して選地した古代山城として「杷木神籠石（くだり）」、「女山神籠石（のぼり）」などを分類した。ある程度距離がある場所からでも全体像を把握することができる。また、河川などによる障害物が近接している。

分類④は、古代道路からの視認性を意識せずに選地した古代山城として、「おつぼ山神籠石（のぼり）」などを分類した。部分的ではなく全体像を把握することができる。

以上のことから、古代山城は、のぼり路線とくだり路線からの見え方を意識して、選地していたと考えた。このうち、鞠智城は、のぼりくだり両線から烽火のようなものなどは確認できたと考えられるが、古代山城を構成する列石など古代山城本体を判別するのは難しく、鞠智城に近接するほど全体像がつかめなくなるという性格がある。

このようなことから古代山城は、防衛方向を想定して築造していたのではないかと指摘できた。

古代山城からみる古代道路の関係とその視認性

佐世保市教育委員会 中原彰久

はじめに

◇古代山城 朝鮮式山城 (文献記載があるもの)
神籠石系山城 (文献記載がないもの)] 統一して古代山城とする。

参考文献 亀田修一氏 古代山城の中にも石壘が設けられていない区間があることから未完成説

向井一雄氏 古代山城の中にも駅路から見える部分のみ石壘を設けていると考えるため駅路を意識した見せる城説

◇古代道路 駅路・伝路・車路→古代道路とする。

参考論文 木下良氏 地名や地理情報、発掘調査などから古代道路推定路線を作成。

■研究事項

① 駅路からの見え方を意識して石壘を設けるという向井氏の説を参考にする。

→分析には、カシミール3Dと現地での視認を参考にする。

② 古代山城を唐・新羅の軍事侵入を考慮した防衛施設とし、古代道路を介して侵入すると設定する。

→大宰府を中心とし、地方から大宰府へ向かうルートをのぼり線、大宰府から地方へ向かうルートをくだり線として設定した。

1. 古代道路からの視認性

事例1 鞠智城

のぼり (菊池→山鹿)

(a)森北 台地上に位置し、阿蘇や熊本から菊池に向かうルートの合流地点である。

評価：視認できる。しかし、判別は難しい。

(b)萬太良坂 森北のある台地から菊池平野におりてすぐの地点。

評価：視認できる。しかし、判別は難しい。

(c)菊池郡家 西寺遺跡として調査され、菊池郡家に比定される。

評価：視認できない。前面の山に遮られる。

くだり (山鹿→菊池)

(a)鍋田付近 6世紀の鍋田横穴墓群があり、その前面に広がる地点

評価：視認できる。しかし、鞠智城の判別は難しい。

(b)方保田付近 弥生時代後期から古墳時代前期の集落が発掘で検出された。

評価：視認できる。灰塚や長者山が視認できる。

(c)一本松付近 古墳時代後期築造の御靈塚古墳などが点在している地点

評価：視認できる。しかし、判別は難しい。

事例2 女山神籠石

のぼり (狩道駅→筑後平野)

(a) 狩道付近 南関方面から筑後平野にはじめて到達する地点。

評価：視認できない。清水山の南端の丘陵により、視認できない。

くだり (筑後平野→狩道駅)

(a) 葛野駅付近 1か所目 八女古墳群の丘陵を超えて山城前面の平野に到達する地点。

評価：視認できない。

(b) 葛野駅付近 2か所目 1か所から南下すると、水門等を視認することができる。

評価：視認できる。

事例3 おつぼ山神籠石

のぼり (嬉野→武雄)

(a) 檜崎付近 近世の長崎街道のルートとして使用されていたとされている

評価：視認できない。南檜崎自治公民館の西方に位置する丘に遮られる。

(b) 玉島古墳付近 佐賀県下でも最大級の円墳であり五世紀末の築造。

評価：視認できる。南水門などを確認できる。

くだり (武雄→嬉野)

(a) 北方付近 佐賀方面と唐津方面へ抜ける古代道路の合流地点である。

評価：視認できない。勇猛山により遮られる。

(b) 片白付近 勇猛山の山裾を超えた場所

評価：視認できる。しかし、判別は難しい。

事例4 柏木神籠石

のぼり A1 (日田→朝倉)

(A1a) 大野原付近 日田方面から浮羽地域に到達する地点。

評価：視認できる。特に南側斜面のみ確認できる。

(A1b) 林田付近 飯塚付近から浮羽地域に到達地点のうち、丘陵部。

評価：少し北上すると柏木神籠石の北側山麓に遮られる。

(A2a) 筑後川の長瀬付近 筑後川の下降部 浮羽地域を見下ろす平地

評価：視認できる。しかし、列石や急崖であるため進入は不可能と考えられる。

くだり (朝倉→日田)

(a) 久喜宮付近 筑後川沿いに位置し、水運を考慮し設定した。

評価：視認できる。この地点から柏木神籠石は真東に位置し、谷部も確認できる。

(b) 若市 久喜宮の地点より北側に位置し、古代道路路線上である。

評価：視認できる。久喜宮付近と同様に視認できる。

事例5 鹿毛馬神籠石

のぼり (行橋→大宰府)

(a) 綱分付近 古代道路路線上で、近くに綱分駅や綱分八幡宮がある。

評価：視認できない。綱分の北側に位置する大谷山に遮られる。

(b) 庄内川小竹付近 のぼりの河川交通を考慮した。

評価：視認できる。鹿毛馬神籠石の北側一部が視認できる。船で進むのは困難。

くだり (大宰府→行橋)

(a) 遠賀川目尾付近 くだりの河川交通を考慮した。

評価：視認できる。ただし、判別は難しい。

2. 分析結果及び考察

分類① 視認性を意識した方向→古代道路からの見え方を意識している

鞠智城（のぼり・くだり）、基肄城（くだり）、阿志岐城跡（飯塚→筑紫野のぼり）

阿志岐城跡（朝倉→筑紫野のぼり）、鹿毛馬神籠石（のぼり・くだり）等。

→進行方向とは別の方角をあえて見なければ視認できないものや、丘陵および山などにより視界が遮られている場合が多い。博多湾及び不知火海からの侵入を意識していると考えられる。

分類② やや視認性を意識した方向→古代道路からの見え方をやや意識している。

杷木神籠石（のぼり）、女山神籠石（くだり）、御所ヶ谷神籠石（のぼり）等

→近接して初めて視認できるものが多くそれまでは、丘陵や山を越えないと視認できない。

分類③ わずかに視認性を意識した方向→河川等の地形を考慮し、やや意識している

杷木神籠石（くだり）、女山神籠石（のぼり）、唐原神籠石（くだり）等

→ある程度距離がある場所からでも全体像を把握することができる。

また、河川などによる障害物が近接している。

分類④ 視認性を意識していない方向→古代道路からの視界を遮るものはほとんどない。

おつぼ山神籠石（のぼり）など

→部分的ではなく全体像を把握することができる。

おわりに

本論で、のぼり路線とくだり路線では古代山城の視認性が異なり、古代道路などを介して侵入してくる侵入者を意識して、防衛性を考慮した選地であると考察できた。今回はあくまでも古代推定道路路線のなかでも大まかな地点からの視認性の評価となってしまった。

しかし、鞠智城はほかの古代山城のような一方向を意識しているのではなく、全方向からの侵入を考慮した計画的選地であったと考えられる。また、同様の性格をもつ古代山城は分析の結果、鹿毛馬神籠石が類似しており、比較検討の重要性を示した。

参考文献

- 木下良 二〇一三 『日本古代道路の復元的研究』 吉川弘文館
亀田修一 二〇一四 「古代山城は完成していたのか」『鞠智城II -論考篇一-』 熊本県教育委員会
熊本県教育委員会 二〇一四 『鞠智城跡II』
佐賀県教育委員会 一九六五 『佐賀県文化財調査報告書』第一四集
向井一雄 二〇一六 『よみがえる古代山城：国際戦争と防衛ライン』 吉川弘文館

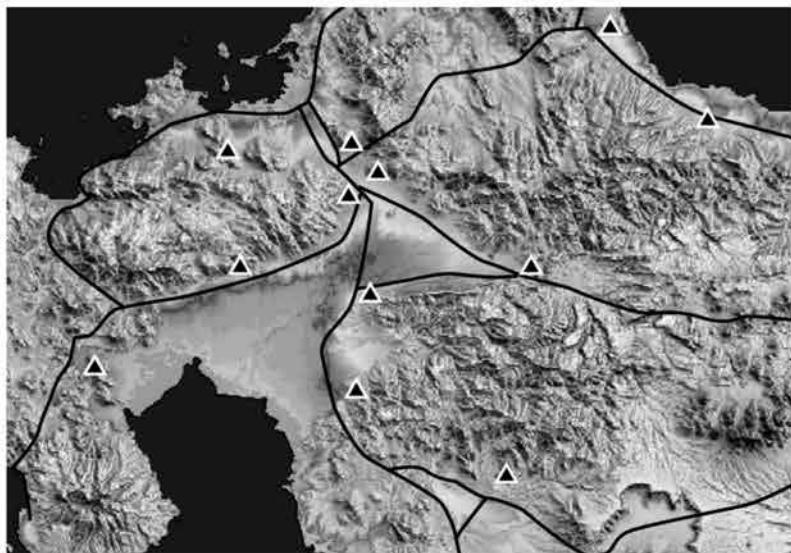


図1 古代山城の位置と古代道路路線

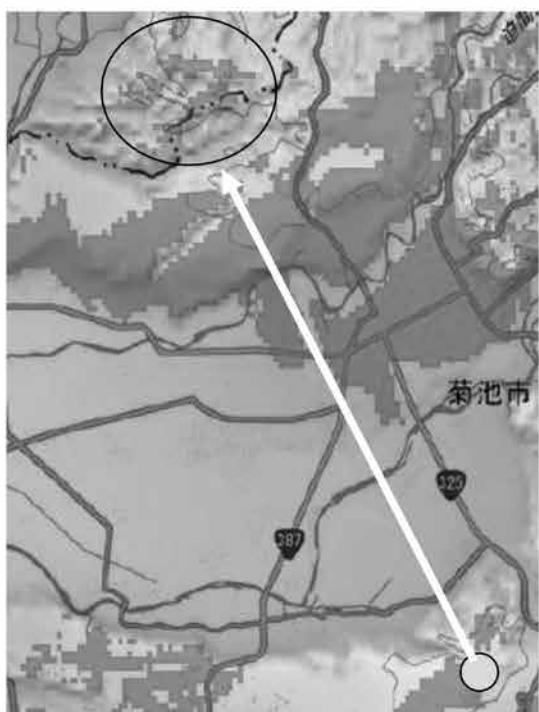


図2 事例1 鞠智城（のぼり）分類①



図3 事例5 おつば山神籠石（のぼり）分類④